

職員さんに聞いてみよう!

理学療法士

さんに聞いてみた!!



特別養護老人ホーム
リハビリ課 課長
高倉 哲也

『安心・安全で働きやすい職場の実現』

第5話

「ノーリフティングケア・福祉機器・器具の活用について」

はじめに、皆様「3K」という言葉はご存知でしょうか?知っている方もいらっしゃると思いますが、知らない方のために解説を。

意味合いとしては「きつい・汚い・危険」の略で、主に肉体労働を指した用語になります。

そして、この3Kに当てはまる業務が各種ある中で、何とナント、介護業界はその代表格として挙げられているのです。ただでさえ介護人材の確保が困難な時代にあって、このイメージ定着がさらなる介護離れを助長してしまうことは、火を見るよりも明らかです。

さて本題へ。5回目となる今回は、そうした「3Kイメージの払拭」も

期待できる腰痛予防対策(「ノーリフト」として、当園が導入した福祉機器・器具の活用事例について、いくつか紹介をさせていただきます。

特養では、職員の健康管理として「腰痛調査アンケート」を年2回実施しており、現場職員にとっての腰痛原因となる業務内容の精査を行っています。

- ① 排泄、② 移乗、③ 入浴

2018年度から3年間の調査の結果、介護業務における腰への負担が圧倒的に高い業務が以上の3種であることが分かりました。

特に排泄業務は、過去3年間を振り返っても不動の第1位。あとの2種が鼻の差で競り合っているという結果です。

さて、ここからは各業務別に機器・器具を活用した事例について紹介させていただきます。

①ピットカバー



皆様、これを覚えていていらっしゃいますか?汚物処理便器カバー(ピットカバー)です。この器具の役割は、排泄業務の負担を軽減することです。これについては第3話で紹介いたしますので、説明は省略させていただきます。

こんな感じで、移乗や入浴業務の負担軽減のために導入した機器・器具について紹介させていただきます。

②スタンディングマシン「スマイル」



写真のように、車椅子・椅子等に座っている方の立ち上がりを補助してくれる機器です。この機器導入の最大のメリットは、スペースの限られたトイレ環境で、人力で抱えるよりほかに手段がなかったこれまでの苦勞を見事に解消してくれたことです。



③ 特殊浴槽 「シャワートロリー」

寝たまま入ることのできる組み立て式の特殊浴槽です。本館・ヨハネ館の入浴担当職員からも悲鳴があがっていた、持ち上げ・抱え上げ負担の改善のために1台ずつ導入しました。



Before



After



本館浴室のビフォーアフター

導入後は、写真のように使用方法を入浴担当職員へ伝達し、職員からの機器に対する改善提案については随時業者に連絡しながら対応している状況です。

浴室完成!



ヨハネ館浴室

ヨハネ館は、入浴担当職員ならびにご利用者のニーズにより、2か所の浴室でトロリー浴が使用できるように、庶務の方に改修工事をお願いしました。そうです!!本館・ヨハネ館どちらのトロリー浴槽も、比較的簡単に移動ができる浴槽なのです。このように、移動が出来るのも魅力の一つです。

まだまだ紹介したいのですが、そろそろページの限界でしょうか。

2018年度から現在までにノリフト関連で導入した機器・器具は7種57個となります。導入までには、計画と試行を繰り返しながら、現場にとっての有用性を評価しながら進めてきました。

冒頭でも述べたように、ノリフトの取り組みは「3Kイメージの払拭」にも期待できますので、スタッフにとっても安心・安全で働きやすい職場の実現ができるように、施設長先導の下、着実に取り組んでいきます。

